

石川県林業試験場構内で確認された鳥類

矢 田 豊

I はじめに

石川県内で記録されている鳥類は1990年2月現在で389種とされており、これは全国の記録種数である555種の70%にあたる。また、報告のある範囲では最も記録種数の多い県でもあるという(5)。これには、沿岸部から高山帯まで多様な生息環境に恵まれ、また渡り鳥の重要な中継地となっていること等、地理的要因が深く関わっているものと思われる(5)。一方、県内の地域的な鳥類の分布やその季節的変動については、兼六園(4)および金沢大学の城内キャンパス(3)の詳細な記録があるほか、白山ブナ帯における一連の報告がある(1, 9~15)。しかしその他の地域においては調査記録はほとんど見あたらず、県内の低地帯の鳥類相に関する基礎資料はあまり多くないと言える。

また、近年は環境緑化に対する一般の認識が高まってきており、保健休養的利用を主眼に置いた森林整備においても野鳥の生息条件を考慮にいられた指針が提案されるようになってきた(2, 6, 8, 16)。石川県林業試験場では1962年より樹木公園の整備を開始し、地域住民の保健休養的利用に供してきた。最近では探鳥会等も開かれ、樹木公園に関する提供情報のひとつとして、鳥類リストの必要性が高まってきた。

これらのことより、本報では1987年~'91年の著者の観察記録を中心として、石川県林業試験場構内で確認された鳥類について報告する。

当場の元庶務課長であり日本野鳥の会石川県支部事務局長でもある中村正博氏には、当场在職中を中心とした綿密な観察記録をご提供頂いた。石川県環境部の平成3年度鳥獣保護区設定効果調査において、当场構内の調査を担当された北陸学院中等部講師の高文子氏には、上記調査の記録をご提供頂いた。石川県白山自然保護センターの上馬康夫専門研究員には、本報をまとめるにあたり、全般にわたって貴重なご助言を頂いた。石川県野

鳥園の竹田伸一技師には、観察記録をご提供頂いたほか、貴重なご助言を頂いた。新潟県林業試験場の箕口秀夫研究員には、参考になる多くの文献をご紹介頂いた。

以上の方々に、厚くお礼申し上げる。

II 調査地および調査方法

調査地の概要を表-1および図-1に示す。石川県林業試験場は加賀平野の南東、手取扇状地の基部より後高山山腹斜面を含む位置にある。構内には芝生・花木等の疎林・庭園の池等多様な環境を備えた樹木公園と、スギ人工林・ナラ2次林を主とした山林がある。

主な調査者と各々の主な調査期間、調査方法を表-2に示す。本報の種の記載には、原則として日時・場所の明記された記録のみを用いた。また、各種の出現時期および観察頻度を、各調査者の記録を参考にして記載した。

表-1 調査地の概要

地 番	石川県石川郡鶴来町 三宮町および白山町
経 緯 度	北緯 36° 25', 東経 136° 38'
標 高	130m~380m
環境概要	山林 (スギ、ナラ2次林、他 10~80年生 13.58ha) 公園 (芝生、疎林、庭園 27.16ha) 農地 (苗畑 1.80ha) 敷地 (建物、駐車場 1.23ha) 池 (庭園内 1,318m ²)
	計 43.77 ha

III 調査結果および考察

調査結果を表-3に示す。確認された種は76種と1変種(ウソの変種であるアカウソ)であった。メボソムシクイについては、その変種であるコメボソムシクイのみが記録されている。1990年2月までに石川県内で記録された鳥類は389種であり、また県内でほぼ普通に見られる山地性および平地

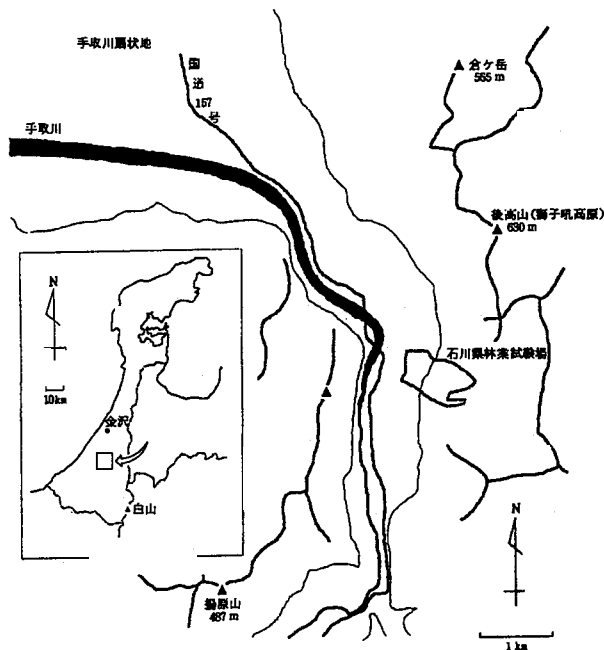


図-1 調査地の位置

表-2 主な調査者と主な調査期間、調査方法

調査者	調査期間	調査方法
矢田	1987.4~'92.3	随時姿、声および落鳥による確認種を記録
中村	'84.3~'85.3	随時姿、声および落鳥による確認種を記録
高	'91.5.3,8.25, 11.17, '92.2.18	樹木公園周回コースでラインセンサス調査

性の鳥類は約150種である(5)。当該構内で確認された鳥類はそれぞれの20%、および50%にあたる。今回の報告では調査頻度が不定期かつ十分でなかったこと、近縁種までの確認にとどまり、正確な種の同定ができなかった種は記載していないこともあり、今後、確認種数はある程度増加すると考えられる。特に、渡りの時期の調査の実施により、確認種数はより増加するものと思われる。

コシアカツバメは、1989年より林業試験場本館横の旧展示館の軒先に営巣している。しかし、1991年にはスズメがその巣を攻撃し、巣を占拠した。コシアカツバメの県内での分布は局地的であり、また小規模なコロニーでは常にスズメの攻撃を受けていると言う(竹田私信)。当該でも今後定着するかどうか、注目すべき点である。

アオサギ、ヤマセミは一時的に池のコイ等を捕食するために飛来しているものと思われる。

ウソおよびアカウソは樹木公園のソメイヨシノ

の花芽を採食するために飛来する。これまでの観察では、山地での降積雪が多い時にはより多いウソおよびアカウソが飛来し、食害量が増大する。食害が激しい時には満開時でも3~4分咲き程度の様相となる。

また、1990年9月21日、樹木公園芝生広場で弁当を食べていた遠足の小学生がトビ3~4羽に襲われ、弁当を取られる被害が発生した。鳥類による人に対する直接の被害は、樹木公園開設以来この1回のみが記録されている。

なお、9月中旬~10月上旬に、サシバを主とするタカ類の渡りが確認されている。日本野鳥の会石川県支部の調査(7)によると、後高山(獅子吼高原)から観音山(図-1 揚原山の西約4 km)への渡りルートが確認されていると言う。

兼六園(4)および金沢大学の城内キャンパス((3)以下金大と略)や、白山ブナ帯(1, 9~15)の報告と当該での記録を比較すると、かなりの種類が重複して確認されている。明らかに異なる傾向が認められた点についてのみ、以下に掲げる。

まず、当該で比較的普通に観察されるサンコウチョウ・トラツグミ・イカル・コガラ・マヒワ等が兼六園および金大では記録がないか、観察頻度が非常に低い。また、当該(および兼六園・金大)で春や秋に一時的に見られ、主にブナ帯等で繁殖していると思われる種として、コルリ・コマドリ等が挙げられる。主にブナ帯で繁殖し、冬期に当該(および兼六園・金大)で観察される種としてはヒガラ・ルリビタキ・アオジ等が挙げられる。当該や兼六園および金大で比較的普通に見られるが、ブナ帯等では見られないか観察頻度が非常に低い種としてはムクドリ・オナガ・ハシブトガラス・コシアカツバメ等が挙げられる。

このように、当該の鳥類相は兼六園・金大や白山ブナ帯とは関連を持ちつつも、特徴あるファウナを示している。他地域との、鳥類群集組成のより詳細な比較を行うには、より細密なラインセンサス等の調査が必要である。さらに、野鳥の生息条件を考慮にいたした森林整備の在り方等を検討するためには、目的とする種毎あるいは採食ギルド毎の、生態学的調査が必要となるであろう。

表-3 石川県林業試験場構内で確認された鳥類 (1992年2月現在)

No. 種名	出現時期	観察頻度	備考	No. 種名	出現時期	観察頻度	備考
サギ科				ヒタキ科			
1 ゴイサギ	年	少		(ツグミ亜科)			
2 アオサギ	年	少	池	33 コマドリ	(夏)	稀	
ガンカモ科				34 ノゴリ	旅	稀	
3 カルガモ	年	少		35 コル	(夏)	稀	
ワシタカ科				36 リビタキ	(夏)	少	冬のみ
4 ハチクマ	(夏)	少		37 ジョウビタキ	冬	普	
5 トビ	年	普		38 マミジ	夏	少	
6 サシバ	年	少		39 トラツグ	年	普	
7 クマタカ	年	少		40 クロツグ	夏	普	
8 チゴハヤブ	旅	稀		41 アカハラ	旅	稀	
キジ科				42 シロハラ	冬	普	
9 ヤマドリ	年	少		43 ツグ	冬	普	
10 キ	(年)	普	繁殖	(ウグイス亜科)			
ハト科				44 ヤブサメ	夏	普	
11 キジバト	年	普		45 ウグイス	(年)	稀	
12 アオバト	夏	稀		46 コメボソムシクイ	旅	稀	
ホトトギス科				47 エゾムシクイ	旅	稀	
13 ジュウイチ	(夏)	少		48 センダイムシクイ	(夏)	稀	
14 カッコウ	(夏)	少		(ヒタキ亜科)			
15 ツツドリ	(夏)	少		49 キビタキ	夏	普	
16 ホトトギス	(夏)	少		50 オオルリ	夏	普	
フクロウ科				51 エゾビタキ	旅	少	
17 フクロウ	年	少		(カササギヒタキ亜科)			
アマツバメ科				52 サンコウチョウ	夏	普	繁殖
18 アマツバメ	(夏)	少		エナガ科			
カワセミ科				53 エナガ	年	普	
19 ヤマセミ	年	少	池	シジュウカラ科			
20 アカショウビン	(夏)	稀		54 コガラ	(年)	普	冬のみ
キツキ科				55 ヒガラ	(年)	普	冬のみ
21 アオゲラ	年	普		56 ヤマガラ	年	普	
22 コゲラ	年	普	繁殖	57 シジュウカラ	年	普	
ツバメ科				メジロ科			
23 ツバメ	(夏)	普		58 メジロ	年	普	
24 コシアカツバメ	夏	普		ホオジロ科			
25 イワツバメ	(夏)	少	繁殖 ('89~)	59 ホオジロ	年	普	
セキレイ科				60 カシラダカ	冬	普	
26 セキレイ	年	普		61 ミヤマホオジロ	冬	少	
27 セグロセキレイ	年	普		62 アオジ	冬	少	
サンショウクイ科				63 クロジ	夏	稀	
28 サンショウクイ	夏	普		アトリ科			
ヒヨドリ科				64 アトリ	冬	少	
29 ヒヨドリ	年	普		65 カワラヒワ	(年)	普	
モズ科				66 マヒワ	冬	普	
30 モズ	年	普	繁殖	67 ベニマシ	冬	少	
カワガラス科				68 ウソソ	(年)	普	冬のみ
31 カワガラス	年	少		69 アカウソ	冬	普	
ミソサザイ科				70 シカ	(年)	普	
32 ミソサザイ	年	普		ハタオリドリ科			
				71 スズメ	年	普	繁殖
				ムクドリ科			
				72 ムクドリ	年	普	
				カラス科			
				73 カケス	年	普	
				74 オナガ	年	普	
				75 ハシボソガラス	年	普	
				76 ハシブトガラス	年	普	

*分類、種名および出現時期は、中村(5)に準じた。ただし、当該での出現時期が季節的に偏りのある可能性のある種については()を付した。
 *観察頻度は、普通に観察される種を「普」、観察回数が少ない種を「少」、稀にしか観察されない種を「稀」とした。
 *営巣あるいは幼鳥を含む家族群を確認した種のみ、備考に「繁殖」と記載した。

引用文献

- (1) 長谷川博：白山における繁殖期の鳥類相(予報). 石川県白山自然保護センター研究報告 4 ; 131~132, 1978
- (2) 林 武雄：野鳥の森の造成と利用. グリーンエージ 185 ; 32~38, 1989
- (3) 池田善英・石塚 徹・浦野栄一郎・戸田光彦・山本正恵：金沢大学城内キャンパスで観察された鳥類. 金沢大学理学部附属植物園年報13 ; 27~36, 1990
- (4) 板坂三郎：兼六園の野鳥生息メモ. 19pp, 自費出版, 1978
- (5) 中村正博：鳥類. 石川の動植物, 52~67, 石川県, 1990
- (6) 中村登流：森林の野鳥. 森林風致計画学, 81~111, 文栄堂出版, 1991
- (7) 笹原裕二：タカの渡りルートが見えてきた. 石川の野鳥44 ; 2~3, 1991
- (8) 曾根晃一・土方康次：都市近郊林の野生鳥獣をめぐる諸問題. 森林科学 4 ; 27~33, 1992
- (9) 上馬康夫：犀川上流、高三郎山の鳥類(1)繁殖期における鳥類群集構造. 石川県白山自然保護センター研究報告 4 ; 63~78, 1978
- (10) 上馬康夫：犀川上流、高三郎山の鳥類(2)生息期間と個体数の季節変化. 石川県白山自然保護センター研究報告 5 ; 67~86, 1979
- (11) 上馬康夫：鳥類. 尾添川流域自然環境保全対策調査報告書, 59~63, 石川県白山自然保護センター, 1982
- (12) 上馬康夫：白山チブプリ尾根の繁殖期の鳥類. 石川県白山自然保護センター研究報告12 ; 31~39, 1985
- (13) 上馬康夫：白山チブプリ尾根の秋期の鳥類. 石川県白山自然保護センター研究報告14 ; 47~55, 1987
- (14) 上馬康夫：白山チブプリ尾根及び市ノ瀬周辺の厳冬期の鳥類. 石川県白山自然保護センター研究報告15 ; 83~86, 1988
- (15) 上馬康夫：白山林道自然環境調査報告書. 56~59, 石川県環境部, 1988
- (16) 由井正敏：林業と野鳥の調和のために. 森に棲む野鳥の生態学, 213~229, 創文, 1988